

# セカチュー見聞録

訪問者

「ここいいですね」と言いながら「入ってきた男達。「変な人」と思いながら次の言葉を待った。「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地が決定した瞬間だった。全国から映画ファンが押し寄せて「セカチュー現象」が巻き起こるとは男達も想像していなかった。

ブランコから



封切

赤い欄干の橋、ブランコや防波堤等、主人公が歩いた風景そのままの庵治町、訪れた人は「なんだか初めて来た感じがしない」と感じながらロケ地を散策していった。

庵治町に

大騒動が巻き起こったのは言うまでもない、人口6千人の町に毎日千人以上の人々が押し寄せて来たらどうなるか？

トイレが無い、ご飯を食べる所が無い、お土産が無い、案内看板が無い等々、無い物だらけの田舎町が全国ニュースで放送されるようになっていった。ロケ地案内看板が設置される頃には、ロケ地マップを手にロケ地巡りをする人が目立つ様になった。

庵治町役場で開催された「ロケ地写真展」には3ヶ月で10万人余が訪れ、巷では「純愛の聖地」と呼ばれるようになっていった。

## 庵治町と木庭子町

「なんでこんなに石ばかりあるんですか？」防波堤で一番多く聞かれた質問である。日本一の石材産地として栄えてきた庵治町と木庭子町が結びついた。庵治石製の写真立てが帰路に付く観光客の御供をするようになり、幾万の想いと庵治石製写真立てが全国に届けられた。会話の中に、映画とロケ地が繋がるヒントが隠されていた。



雨平寫真館

純愛の聖地庵治・  
観光交流館館長

滝内 志保

(香川県)



庵治石製写真立て

「純愛の聖地庵治・観光交流館」に雨平寫真館が復元されて12年、昨年は2万人余りの人を館長としてお迎えした。カップルや20代のグループが多かったロケ地巡りも、家族連れが目立つようになり時の移り変わりを感ずる。

映画がきっかけで有名になった庵治町は、本来観光地ではなく「石材と漁」の町であったため、観光地としては何もノウハウは無く、押し寄せてくる観光客に対して十分な対応が出来なかった事が残念でもあり、また、今後に活かして行くべき課題だと思っている。

寫真館はカフェに改装され、地域の特徴を生かしたメニューを提案している。屋島カレーに五剣山チャーハン、海苔シフォン、名勝史跡、特産品を取込んだメニュー開発、情報発信を心掛けています。また、「純愛の聖地」のイメージを活か



して婚活イベントを定期的  
に開催しており、成婚に至っ  
たカップルは、雨平寫真館で  
前写しが出来るように配慮  
している。

## 映画人との交流

2016年2月14日、パレ  
ンタインデーに行定監督  
がツアコンを務めるロケ地  
ツアーが「さぬき映画祭」10  
周年特別企画として実現し  
た。

春の雪ならぬ、春の嵐となつた前日か  
らの雨も上がり、総勢50余名のツアー一  
行をお迎えする交流館スタッフの顔にも  
安堵の色が見えた。

2005年以来の庵治町が、行定監督の  
目にはどう映つたのか興味深い事である。

行定監督には「世界の中心で、愛をさ  
けぶ」ネーム入り庵治石製ピンバッチが  
記念品として贈られた。

映画に対してとても厳しい人だと聞い  
ていたが、気さくで飾らない人柄に「世  
界の中心で、愛をさけぶ」が大ヒットし  
た秘密がこんなところにもあるのかなと  
感じた。

行定監督は、「普通は、ロケ地が決まっ  
てから台本を起こすんだけど、この時は  
台本が出来上がってからロケハンに出た



さぬき映画祭 in 庵治

感慨深げだった。

「このシーンはここで撮ろう、あの場  
面はここがピッタリだ」と台本の世界が  
そのまま用意されていたのが庵治町だっ  
た」とツアー参加者達に語りかけていた。

## こぼれ話

行定監督は、防波堤のシーンを撮影し  
ている時に背後の海を走る漁船に「もう  
少ししてから動いて、カッター、後ろの  
漁船さんもう一回お願いします」と今思  
えば無茶な演出にも快く協力をしてくれ  
て感謝している事やアキヤマ電気店の  
アーケードに惹かれた理由、演出の意図  
を交えながらロケをお願いした経緯を話  
している時に、アーケードが築50年だと

地元ゲストから聞かされて「古い物が当  
たり前に残っている事が素晴らしい」と  
アーケードを絶賛。

## 後日談

行定監督によると映画人仲間から、あ  
の映画の殆どのシーンが僅か数キロ四方  
の地域で行われた事が奇跡だと驚きを持  
って受け取られている事や台湾にロケ  
ハンに行った時には、現地のスタッフ  
が防波堤を朔太郎が走って海に向かつて叫  
ぶシーンを再現して歓迎してくれた事が  
紹介された。

行定監督と地元からのゲスト2人を交  
えたトークショーの後、雨平寫真館前で  
ツアー参加者全員記念写真を撮影。

この後、ツアー参加者達はロケ地を行  
定監督から映画撮影のエピソードを聞き  
ながら散策した後、イオンシネマで「世  
界の中心で、愛をさけぶ」を鑑賞した。

封切から10年以上たった今でも、ロケ  
地巡りを楽しむファンの姿が絶える事  
はない。



熱弁 行定監督